

## 高等学校改革の推進に関する要望書

日頃から、当飯田下伊那地域の教育振興に対して格別なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、高等学校の改革・再編問題に関しましては、平成 17 年 3 月に高等学校改革プラン検討委員会の最終報告が示されて以降、当地域と致しましても最重要課題の一つとの認識の基に、独自に「高等学校の未来検討委員会」を設置するなどして真摯な議論を積み重ね、関係者の苦渋に満ちた英断によって「飯田工業高等学校と飯田長姫高等学校の統合」という地域独自の代案をまとめました。

そして、この実現に向け、南信州広域連合と致しまして県教育委員会並びに関係機関に対しまして要望等を行って参りましたが、様々な経過の中で、本年 6 月 14 日に県教育委員会から新たに「高等学校改革プランの今後の進め方について」が示されたところです。

この内容は、真摯な議論の積み重ねと関係者の苦渋に満ちた決断によって独自の案を取りまとめた当地域にとりましては、必ずしも納得できるものではありませんでしたが、改めて関係者を交えた様々な議論を行って参りました。

その結果、高等教育機関の充足度が県内他地域と比較して著しく低い状況等を踏まえ、地域の将来を担う人材を育成していく中で職業教育の充実は必要不可欠であり、ものづくりの拠点校を整備していくことが必要との考えから、

『飯田工業高等学校と飯田長姫高等学校との統合は、先行して進めていく。』

ただし、県教育委員会には、単なる統合でなく、モデルケースとして、新たなものづくりの拠点校として設置することを強く要望していく。』

との集約に至りました。

県教育委員会におかれましては、これまでの当地域の真摯な論議と苦渋の決断を行った関係者の思いを重く受け止めていただき、下記事項の実現に誠意を持って取り組まれるよう、強く要望いたします。

## 記

1. 飯田工業高等学校と飯田長姫高等学校の統合は、再編計画の中で最優先に取り組むこと。
2. 統合に際しては、両校を単に統合するのではなく、モデルケースとして、新しいものづくりの拠点校として設置すること。
3. そのため、平成 18 年 3 月に策定された「高等学校改革プラン実施計画」は、これに拘ることなく取り扱うこと。
4. 今後は、両校関係者や地域の意見を十分に聞きながら進めること。
5. 飯田工業高等学校と飯田長姫高等学校が統合した高等学校の生徒募集は、新しいものづくりの拠点校の設置が完了してから行うこと。

以上

平成 19 年 12 月 10 日

長野県教育委員会  
教育長 山 口 利 幸 様

南信州広域連合  
広域連合長 牧 野 光 朗

南信州広域連合議会  
議 長 上 澤 義 一